

公益財団法人 野村財団 第1期 事業報告書

平成22年4月 1日から
平成23年3月31日まで

I. 概況

平成22年4月1日に公益財団法人学術振興野村基金、公益財団法人野村国際文化財団及び公益財団法人東京国際研究クラブの3財団が合併し、公益財団法人野村財団（以下、当財団）を新設しました。当財団は、社会科学分野の学術研究・教育活動に対する助成、外国人留学生に対する奨学金の給付、世界経済に関する研究・シンポジウムの開催・研究成果の刊行、芸術文化の国際交流活動に対する助成及び若手芸術家の育成活動に対する助成を行うことなどにより、我が国の学術研究、世界経済及び芸術文化の発展に寄与し、国際的な人材育成と国際相互理解の促進に資することを事業目的としています。本年度は、第1期事業計画に従い、以下のように事業を行いました。

社会科学助成事業については、研究プロジェクト、日本の研究者の海外派遣や外国人研究者の日本への招聘、講演会・研究会議等、奨学研究員及び研究設備に関する助成を行いました。

外国人留学生奨学事業として、外国人留学生に対する奨学金の給付を行いました。

世界経済調査研究事業については、世界経済の動向に関する研究会議及び世界の資本市場の最新動向に関する研究会議を開催し、またその研究成果を出版しました。

芸術文化助成事業については、美術部門および音楽部門の公募助成の他、新人美術家顕彰事業（野村美術賞）に対する助成および敦煌研究院研究員の受入事業に対する助成を行いました。

財務面では、基本財産運用益及び特定資産運用益を合わせた運用益は2億2,172万円でした。基本財産のうち保有債券の運用利回りは年率約2.1%でした。この他、野村ホールディングスから1億円の寄付金を受け入れました。これらを合わせた経常収益は3億2,200万円でした。事業費は3億1,528万円、管理費は2,358万円となり、事業費と管理費を合わせた経常費用は3億3,886万円でした。この結果、当期経常増減額及び当期一般正味財産増減額は▲1,685万円となりました。以上の結果、一般正味財産期末残高は5億4,094万円となりました。

II. 各事業の実施状況

1. 社会科学助成事業

(1) 研究助成：研究プロジェクトに対する助成

助成件数：25件

助成実施額：795万円

(2) 国際交流助成：日本の研究者の海外派遣や外国人研究者の日本への招聘に対する助成

助成件数：33件（派遣26件、招聘7件）

助成実施額：845万円

(3) 講演会等助成：講演会・研究会議等に対する助成

助成件数：9件

助成実施額：500万円

(4) 奨学研究員助成：東京大学大学院法学政治学研究科及び経済学研究科附属日本経済国際共同研究センターの奨学研究員制度に対する助成

助成件数：2件

助成実施額：500万円

(5) 研究設備助成：図書、設備備品、特別講義の開設準備等の経費に関する助成

助成件数：1件

助成実施額：600万円

2. 外国人留学生奨学事業

日本の大学の大学院に在学し、社会科学または人文科学の修学を目的とする外国人留学生のうち、留学生生活上、経済的援助を必要とすると認められ、学業成績が優秀な者に対し一人月額15万円の奨学金の給付を行いました。

対象者：18名（2009年度生8名、2010年度生10名）

給付総額：3,250万円

3. 世界経済調査研究事業

(1) 世界経済の動向に関する研究会議の開催

テーマ：「金融危機後の財政政策」（平成22年11月10日、東京）

(2) 世界の資本市場の最新動向に関する研究会議の開催

①米国における研究会議の開催

テーマ：「高齢化：金融危機後の退職年金制度と資金運用」（平成22年10月15日、ワシントン）

②中国における研究会議の開催

テーマ：「証券市場の制度整備と対外開放」（平成22年5月29日、中国広州）

(3) 調査研究成果の出版

①書籍

1) 「After the Crash: The Future of Finance」（平成22年8月、ブルッキングス研究所出版）

金融危機後の金融業をテーマとした英文論文集

2) 「Capital Markets in India」（平成22年10月、Sage社）

インドの資本市場に関するファクトブック

これらの書籍を全国の136の大学図書館等に寄贈しました。

②「季刊中国資本市場研究」（平成22年4月、7月、10月、平成23年1月）

中国の資本市場に関する国内外の研究機関の研究員の論文集

この季刊誌を全国の234の大学図書館等に寄贈しました。

(4) ホームページでの調査研究成果等の公表

当財団が主催する研究会議の予定、会議の概要、会議において発表された研究論文及び当財団が出版した書籍ならびに雑誌の内容等（日本語及び英語）

4. 芸術文化助成事業

(1) 美術公募助成

美術館等で開催される展覧会のうち、教育的目的を重視するものに対する助成、その他美術教育に係る催事に対する助成を行いました。

助成件数：68件（団体43件、個人25件）

助成実施額：1,800万円

(2) 音楽公募助成

オーケストラ、室内楽、独奏、合唱、オペラ等の活動で、教育プログラムを重視した催事に対する助成、および音楽家の海外留学又は研修に対する助成を行いました。

助成件数：67件（団体38件、個人29件）

助成実施額：1億2,145万円

(3) 新人美術家顕彰事業（野村美術賞）に対する助成

東京藝術大学大学院美術研究科博士課程の大学院生を対象として特に優秀な作品を選定して買い上げ同大学美術館で保存する顕彰事業、野村美術賞に対する助成を行いました。

助成実施額：300万円

(4) 敦煌研究院研究者受入事業に対する助成

東京藝術大学において敦煌莫高窟の保存、管理面に関する壁面顔料及び膠結材料分析研究、唐時代の民間仏教画の研究を行う敦煌研究院研究者の受入事業に対する助成を行いました。

助成実施額：100万円

III. 評議員会・理事会開催状況

平成22年5月26日 第1回（臨時）理事会（みなし決議）

（議案）

- ・第1回（定時）評議員会招集に関する件

原案について理事全員の同意の意思表示を得たため、理事会の決議があったものとみなしました。

平成22年6月4日 第2回（定時）理事会

（議案）

- ・学術振興野村基金、野村国際文化財団及び東京国際研究クラブの事業報告の承認の件
- ・学術振興野村基金、野村国際文化財団及び東京国際研究クラブの決算の承認の件
- ・選考委員の改選の件

いずれも承認可決されました。

平成22年6月4日 第1回（定時）評議員会

（議案）

- ・学術振興野村基金、野村国際文化財団及び東京国際研究クラブの決算の承認の件
- ・役員等の選任の件
- ・議事録署名人の選定の件

いずれも承認可決されました。

平成23年3月11日 第3回（臨時）理事会（みなし決議）

（議案）

- ・第2回臨時評議員会招集に関する件

原案について理事全員の同意の意思表示を得たため、理事会の決議があったものとみなしました。

平成23年3月29日 第4回（定時）理事会

（議案）

- ・事業計画及び予算の件
- ・積立資産の取り崩し枠設定の件
- ・選考委員の改選の件

いずれも承認可決されました。

平成23年3月29日 第2回（臨時）評議員会

（議案）

- ・評議員長の選定の件
- ・積立資産の取り崩し枠設定の件
- ・評議員の選任の件
- ・議事録署名人の選定の件

いずれも承認可決されました。

IV. 選考委員会開催状況

平成22年4月15日 社会科学助成部会

(議案)

- ・平成22年度上期国際交流助成申請書の審査の件
 - ・平成22年度上期講演会等助成申請書の審査の件
 - ・平成22年度下期の助成・募集の件
 - ・議事録署名人の選定の件
- いずれも承認可決されました。

平成22年6月4日 社会科学助成部会

(議案)

- ・社会科学助成部会の部会長の互選の件
 - ・議事録署名人の選定の件
- いずれも承認可決されました。

平成22年7月30日 芸術文化助成部会 (みなし決議)

(議案)

- ・平成22年度下期芸術文化助成選考案承認の件

7月21日に部会を開催しましたが、出席した委員の員数が定足数に満たなかったため、原案について平成22年7月30日に部会選考委員全員の同意の意思表示を得て、部会の決議があったものとみなしました。

平成23年10月8日 社会科学助成部会

(議案)

- ・平成22年度研究助成申請書の審査の件
- ・平成22年度下期国際交流助成申請書の審査の件
- ・平成22年度下期講演会等助成申請書の審査の件
- ・平成23年度下期の助成・募集の件
- ・議事録署名人の選定の件

いずれも承認可決されました。

平成23年2月9日 芸術文化助成部会

(議案)

- ・平成23年度上期の芸術文化助成案件の選考の件
- ・議事録署名人の選定の件

いずれも承認可決されました。

平成23年2月23日 外国人留学生奨学部会

(議案)

- ・奨学生の各大学への配分ルールの件
- ・平成23年度外国人留奨学生の選考の件
- ・議事録署名人の選定の件

いずれも承認可決されました。

以上